

グループの反対にあり、朝鮮動乱もあつて、3カ月中止となつています。一方その頃から現在のNTSC方式の研究がなされ、28年に全規格が完成し、FCCにより許可され、翌年から正式にカラーテレビの放送が行なわれました。日本では35年9月1日からです。

放送される電波の構造は、白黒の場合は6メガサイクルの幅の中に絵と音の信号を入れていますが、カラーの場合は赤緑青の信号を必要とするので、3倍の18メガサイクルを必要とします。カラー電波の搬送波をぬき、白黒電波と一緒に乗せて送るわけです。カラー信号は、赤マイナス白と青マイナス白の二つの信号を一つにして送ります。電波が簡単になると受像機が複雑になります。白黒電波の中からカラー信号をぬき出し、これを赤マイナス白と青マイナス白の信号に復元し、二つの信号を51:19%の割合で加えると緑マイナス白の信号が出来ます。これら三つの信号を与えると、ブラウン管にはプラス白の信号がかけてあるので、赤緑青の色が再現されるのです。

ブラウン管には内面にシャドウマスクと言う26~30万個の穴のあいた鉄板が入れてあります。管面は写真の技術によつてこのマスクを利用し、赤緑青の点を焼き付けます。これはオートメで製造は出来ません。又出来たものはテストの段階で75%程はねられます。これがカラーテレビの値段を高くしている原因で、又テレビの半分の値段がブラウン管なのです。ブラウン管にはこの他にクロマトロン管があります。これは縦に細い線が沢山並べられ、それに電圧がかかつて色を振り分けるもので、明るいのが特徴です。

カラーテレビは三つの調整をします。ホワイトバランス(白度合)調整、ユーリテイ(色むら)調整、コンバーゼンス(色ずれ)調整です。このうち色ずれの調整は信号機を用い、点信号により中心部のずれを、格子縞信号により周辺部のずれを調整するのです。明るさは7割程度にし、カラーは濃すぎないよう、色調は人間の肌色に合わせることも大切です。又室内の電灯を暗くしてご覧になれば、16ミリ映画よりも良く見られます。

現在函館でもNHKがカラー放送をしています。民放はまだ正式に放送していませんが、STVが90%、HBCが50%見られるようです。将来ブラウン管が安くなればカラーテレビの価格も安くなるでしょう。そしてその先のテレビは、恐らく、ステレオテレビが開発されると思います。

◆ 出席報告

1. 本日 会員数31名 出席26名
2. 前回の確定出席率 77.42% (出席23名、マークアップ1名)
3. 4月の平均出席率 83.87%

参考: 函館RC 93.40% 函館東RC 92.39%



通算才115号

1965~1966-5-18

函館北ロータリークラブ

第98回例会

例会場 明治生命館

例会日 毎週水曜日

12.30~13.30

本日のプログラム

最近の交通事故に就て、 中央署 野戸谷交通課長

- ◆ 司 会 遠藤会長
- ◆ 斉 唱 奉仕の理想
- ◆ ビジター 原 忠雄君他11名(函館RC)
山口敬三君他12名(函館東RC)

◆ 会長挨拶

本日は当クラブ初めての軽食を用意致しました。クラブの財政上御寛容の程をお願い致します。

◆ 会員卓話

◆ 肝油漫談 ◆

青柳喜一君

肝油が薬用に供せられて以来180年余りの歴史を有し、19世紀の半ばには滋養強壯剤として特にクル病・結核に卓効があることが知られ広く普及した。しかしその薬効の本態が明らかになつたのは比較的新しく、大正3年にビタミンA、大正8年にビタミンDが、いずれも肝油から発見された。それらのビタミンの研究が盛んになつたのは昭和の初めころのことである。すなわち当時まで信じられていた肝油の薬効が、その含有するヨードに基くとか、油自体の栄養価が良好であるためであるとかいう考え方は否定され、肝油が有効であるのはその含有するビタミンAとDに基づくものであることが明確にされたのである。従つて肝油服用の目標は当然ビタミンA・Dに置かなければならない。

昭和の初めころまで肝油といえはマグロの肝臓から採つた油で、ノールウェイ・ニューファンドランド・樺太・北海道で生産されていた。河合研究所では昭和3年から日本産肝油のビタミンに関する研究に着手し、肝油のビタミン含量と魚の種類、年令、産地、時期等との間に一定の関係があることを明らかにし、原料の選択により従来見られなかつたビタミン濃度の高い肝油の製造ができるようになった。次いで各種魚類の肝油の研究が進められ、次々とビタミン資源として優秀な魚類が発見された。

これらビタミンA、D含量の多い肝臓は、従来行なわれていた水蒸気法によつては採油できないので、河合研究所では肝油製造法の研究を行ない、昭和7



通算才109号

1965~1966-5-12

函館北ロータリークラブ

第6回クラブアツセンブリー

年今日一般にアルカリ消化法と呼ばれている採油法を発見した。この方法は品質の良好な肝油を収量よく製造し得る良法で、本邦における肝油製造はほとんどこの方法によつて行なわれ、米国においても全く同様の方法が用いられている。

この方法によつてスケソウダラのみならずマグロ、カジキ、サメ、クジラ等の肝臓から大量の肝油が生産されるようになった。これらの肝臓は精製されて薬用肝油となり、さらにこれを原料とした肝油製剤として発育期の幼小児の栄養補給や結核等にかかり易い疎病体質の人達に使用され多くの人々の健康を守るために役立つ。戦争に突入してからは一般油脂と同様統制され、戦力増強のため専ら軍需品として利用された。戦後は魚場の喪失や設備の戦災で戦時中の最高生産量の1/3に減少した。時恰かも世界全域にわたつてビタミンAは不足していた。マ司令部天然資源局はわが国に肝油の増産を大いに奨励した。わが国はビタミンA価の高い良質を魚類に恵れ、製造技術がすぐれていたため、比較的順調に生産は復興し米国および欧州へ盛んに輸出できるようになった。また国内では人の保健菜のための栄養剤だけでなく食生活の向上に伴い食品に添加され、さらに家禽・家畜の飼料にもつかわれ消費分野および消費量は極度に増大した。一方ビタミンAの合成技術は飛躍的な成功を納めるに至つた。年年生産量を増加し値下をし天然肝油の市場に進出して来た。今日では世界市場の過半を占め今後更に拡大して行く傾向にある。

わが国のビタミンAの生産量は世界産額の約10%であり、国内の消費量はその45%見当と推定されている、すなわち国内総生産量の55%はこれを輸出しなければ過剰在庫になると考えられる。残念なことには輸出は年々激減し逆に輸入の合成Aは激増している。天然肝油は斜陽化に拍車がかかけられている現況である。しかしながら天然肝油にはその中に含まれているビタミンAが安定していること。ビタミンA以外にビタミンDおよびその他の有効成分が含まれていること。安価であること等、合成Aには見られない特質を備えている。肝油を原料としたビタミン濃度の高い濃縮精製品もできるようになったが更にこれらが合成Aよりも優位性がもてるよう技術を高め、そして恵れているわが国の貴重な肝油資源が無価値にならぬよう研究配慮しなければならぬと念願しているのは私一人ではあるまい。

出席報告

- 1. 本日 会員数31名 出席 22名
2. 先週の確定出席率 96.77%
函館(5月5日)休み 函館東(5月11日) 91.78%

日時 昭和41年5月12日 18.00~20.30
会場 松風町 函館ロイヤル 蝦夷菊の間
出席者 遠藤 塚田 戸栗 堀 市川 飯田(神) 飯田(貢) 今宮 木村 木屋 高田 高杉 山内 水上 (14名 敬称略)

会長挨拶

本日の目的は、インターシテイ・ゼネラル・フォーラムに提出された議題についての予備討論です。フォーラム・リーダーは、議題についての結論は原則として出さなくてもよいといっています。言わば学会のようなものです。

戸栗幹事

- 1. 運営については嵯峨ガバナーの方針があり、それに従つて実施します。
2. 大沼リーダーの助手として、議題別に担当者(案)を決めました。
職業奉仕 徳田和太郎氏(函館) 国際奉仕 渡辺綱彦氏(函館東)
社会奉仕 豊規矩郎氏(江差) クラブ奉仕 塚田次郎君(函館北)
ロータリー拡大 落合縁久蔵氏(森) 契学制度 四倉太郎(函館)
3. 提出議題については、原則としてその議題に関連する委員長(会)が説明及び答弁にあたることとし、その前に当クラブの意見をまとめた。

提出議題に対する検討

- 各議題につき長時間にわたり討論が行なわれました。その結果を記録しますと、(紙面の関係で議題番号のみ書きました。プリント参照のこと)
I 当地区のロータリーはこれでよいのか? 遠藤会長が担当。
II 職業奉仕部門
1. 原則として可。 2. 他クラブの様子をききたい。
3. 同感 4. 新委員長に
III 国際奉仕部門
1. 特別の意見なし 2. 当クラブの実績を発表する。
3. 賛成 4. 賛成
5. 特別の意見なし 6. 特別の意見なし
7. 再度検討する



通算第111号

1965~1966-5-25

函館北ロータリークラブ

第99回例会

例会場 明治生命館

例会日 毎週水曜日

1230~1330

III 会社奉仕部門

- 1. 当クラブの実績を発表する。
- 2. 特別の意見なし。
- 3. 今宮委員長に。
- 4. 新委員長に
- 5. 賛成。(但し内容による)
- 6. 3クラブ合同が多い。実績発表
- 7. 特別の意見なし。
- 8. 特別の意見なし。

V クラブ奉仕部門

- 1. 深瀬委員長に。
- 2. 水上担当
- 3. 水上担当。
- 4. 提出議題の説明をきいて。
- 5. 他クラブの様子をききたい。
- 6. 他クラブの様子をききたい。
- 7. 他クラブの様子をききたい。

VI ローター拡大に関する部門

- 1. 遠藤会長に。
- 2. 然り。
- 3. 水上が研究。
- 4. 然り。
- 5. 他クラブに教えてもらいたい。

VII 奨学制度に関する部門 特別の意見なし。

その他

- 1. 6月16日に創立記念日の行事を行う。
- 2. 6月1日の例会100回を記念し、是非100%の出席をやつてみたい。
- 3. 今月から毎月の才3例会日を軽食(200円)とする。

○ 当クラブ会員の平均年齢は

創立2周年が近付きましたが、当クラブ会員が2年以上も若返つた事実が証明されました。即ち昭和39年7月1日のチャーター・メンバーの平均年齢が51才8カ月であつたのに、1年10カ月後の昭和41年5月1日現在の平均年齢は51才3カ月になっています。以下年代順に会員名を列記します。

- 明治20年代 ○新
- ◇ 30 ◇ 俣野 ○北村 藤野 ○木屋 外山
 - ◇ 40 ◇ ○野村 ○山内 ○遠藤 ○神原 ○飯田(神)
 - 今宮 ○塚田
- 大正 1桁
- 青柳 ○西村 高田 ○成田 ○杉本 堀 ○深瀬
 - 高杉 市川 宮崎
 - ◇ 2桁 ○森 ○水上 ○船矢 ○戸栗
- 昭和 1桁
- 山形 石橋 木村
 - ◇ 2桁 ○飯田(貢)

(敬称略 ○印はチャーター・メンバー)

本日のプログラム

会員卓話 "奇遇談" 俣野純夫君

- ◆ 司会 遠藤会長
- ◆ 斉唱 我等の生業
- ◆ ゲスト 野戸谷正一氏(函館中央警察署交通課長)
- ◆ ビジター 浅見庄松君(石川県輪島R.C. 同業組合 漆器家具製造)
- 住田清一君(森 酒精飲料小売) 谷義一君(森 電気工事)
- 竹田留治君他9名(函館) 島田敬君他4名(函館東)

◆ 幹事報告

6月26日(日曜)に北見市で行なわれる350地区協議会には、次年度の役員、委員長のうち次の方々が出席義務者です。

飯田会長 市川幹事 山内職業分類委員長 今宮ロータリー情報委員長
堀クラブ会報委員長

◆ 木屋出席委員長

当クラブも次回(6月1日)で100回の例会を迎えます。これを記念して是非100%の出席を達成したいので 御協力願います。

◆ 新職業奉仕委員長

当クラブの創立記念として、七重浜の海難慰霊碑周辺に植樹をする案を持ちましたが、その後の経過につき報告します。

最近渡島支庁所有の園田苗圃を閉鎖し、そのあとを林業試験場の分場とする話がありました。その苗木を処分することなので、それを利用して碑の裏側に松林をつくることを考えていましたが、市がその土地を売却したらしく、遠慮してきました。そこで現在市に交渉中ですが、解決次第着手したいと思っておりますので、もししばらくお待ち下さい。

◆ 出席報告

- 1. 前回の確定出席率 87.10% (出席22名 メークアップ5名)
- 2. 他クラブの状況 函館 98.22% 函館東 90.41%